

身近な自然観察「早瀬の生きもの」
～川の流れの速いところの生きものを観察しよう～
観察参考メモ

川で流れの速いところを「早瀬」と呼びます。簡単な道具を使えば、子どもたちでも早瀬に生息している生きものを捕まえて観察することができます。川での楽しい体験により子どもたちが環境に興味を持ち、その保全を考えていけるよう、早瀬での釣りの方法、捕獲した生きものの観察のポイントをご紹介します。

【早瀬の生きものを観察する前に】

- 川で釣りをするときは、動きやすい服装で、ケガや日焼けを防ぐため、肌を露出しないようにしましょう。
- かかとをしっかりホールドする脱げにくい靴を履きましょう。靴下も履きましょう。
- 帽子をかぶりましょう。

【観察のルール】

- 川での観察会では必ずライフジャケットを着用します。
- 初めて川に入る人には事前に安全教室を行いましょう。
- 見守る大人もスローロープ（浮力のあるロープ）を使った救助法などを学びましょう。
- 水分はこまめにしっかりととりましょう。
- 川で釣りをする時は地域の漁業協同組合や自治体に必ず問い合わせをしましょう。
- 観察が終わったら、生きものは川に返します。

【観察の注意点】

- 川釣りをするとき、周りの人に針がかからないように気を付けましょう。
- 隣の人との間隔を十分にあけてから釣りを始めます。
- 釣れた魚は手をぬらしてからつかみましょう。
- 針先には釣った魚がはずれないように「カエシ」がついていますが、生きものにとっては負担が大きくなります。リリースを基本とする観察会では、「カエシ」をペンチでつぶしましょう。

【観察のポイント】

- 初めて釣りをする時はグラス製の3メートルくらいまでの手竿をつかきましょう。

- 多摩川は有機物が多いので、分解しきれず泥のようになって川の底に残っています。
- 釣り上げたら竿をたてて後ろにもってくると魚を近くに引き寄せることができます。
- オイカワのオスは産卵期になると婚姻色が現れます。
- オイカワは、メスが産卵するときにオスが尻びれでメスを抱くようにして産卵行動を促します。そのため、オスの尻びれは産卵期に長くなります。
- ヌマチチブの腹びれは、吸盤状になっています。
- 二子玉川の多摩川では川と海を行き来する汽水域の生きものが増えています。
- ※川と海が出会い、淡水と海水が混在しているところを「汽水域」と呼びます。
- 二子玉川より下流にある調布堰は、今後撤去するということで、現在は開いている状態です。それによって、海と川を行き来する汽水域の生きものが増えてきているのではと思います。「堰」が撤去されることで、本来の二子玉川あたりの多摩川の姿に戻ってくるのかもしれませんが。

【早瀬の生きものの観察に便利な図鑑】

・『日本の淡水魚』山と溪谷社

山溪ハンディ図鑑シリーズの1冊。日本の淡水魚を網羅する基本図鑑。

最新の増強版は、全18目の目解説も追加し、淡水魚の保護や生態に関するコラムに加え種類を調べるだけではない「学び」の要素がプラスされている。

・『日本の淡水魚図鑑』誠文堂新光社

水中写真家の田口哲氏が執筆。監修は、北里大学名誉教授 井田齊氏。身近に生息する淡水魚と、魚が棲む生息環境が紹介されている。「類似種との見わけポイント」となる特徴的な部分について、写真を使って解説されているだけでなく、淡水魚の保護や理解に役立つ情報も収録している。

主催：一般財団法人森永エンゼル財団

制作：NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

監修：環境学習指導家 榎本正邦

2022.9.30